

御嶽山の火山活動解説資料（平成 26 年 8 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 20 年 3 月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

活動状況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3 - ）

三岳黒沢（剣ヶ峰の南東約 14km）に設置している遠望カメラによる観測では、山頂付近に噴気は認められませんでした。中部地方整備局が王滝村滝越（剣ヶ峰の南南西約 6 km）に設置しているカメラによる観測では、地獄谷の噴気孔からの噴気の高さは 100m 以下で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 4）

御嶽山付近を震源とする地震は少なく、地震活動は静穏に経過しました。
今期間、火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 3 - ~ 、図 5）

GNSS^注連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

注）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 御嶽山 山頂部の状況
（8 月 13 日 三岳黒沢遠望カメラによる）

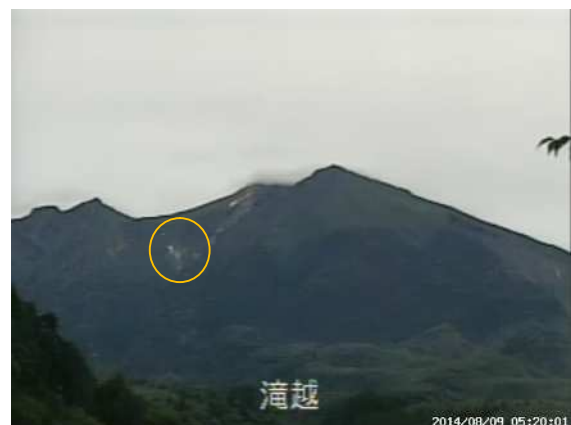


図 2 御嶽山 噴気孔（地獄谷）の状況
（8 月 9 日 滝越設置のカメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 9 月分）は平成 26 年 10 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、名古屋大学、独立行政法人防災科学技術研究所、長野県及び岐阜県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政区・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

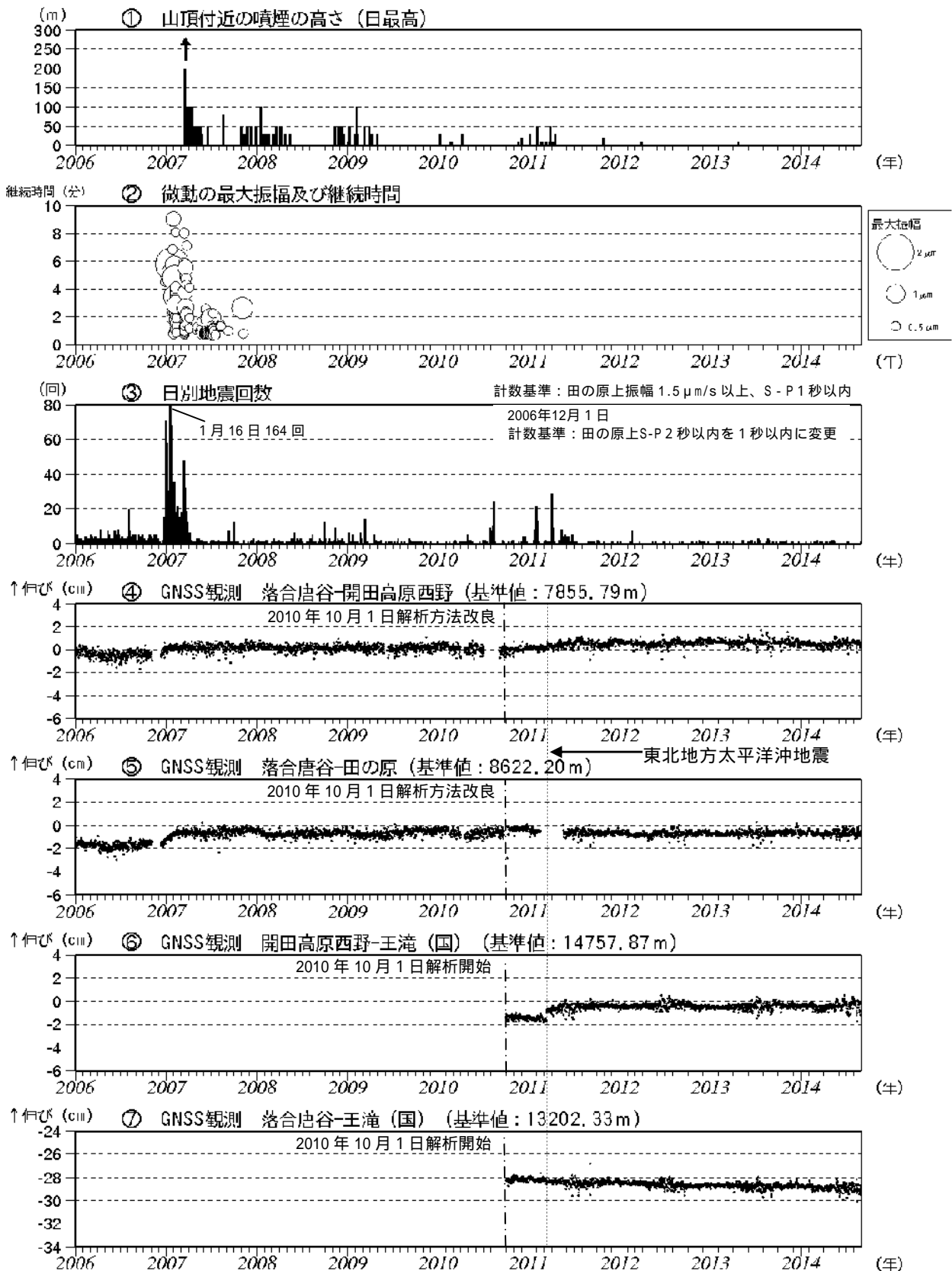


図3 御嶽山 火山活動経過図(2006年1月1日~2014年8月31日)

定時観測(09時・15時)による噴煙の高さ(日最高)

矢印はごく小規模な噴火を示します。

~ GNSS連続観測による基線長変化 (国): 国土地理院

には東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日)に伴うステップ状の変化がみられます。

2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

図中 ~ は図5のGNSS基線 ~ に対応します。グラフの空白部分は欠測を示します。

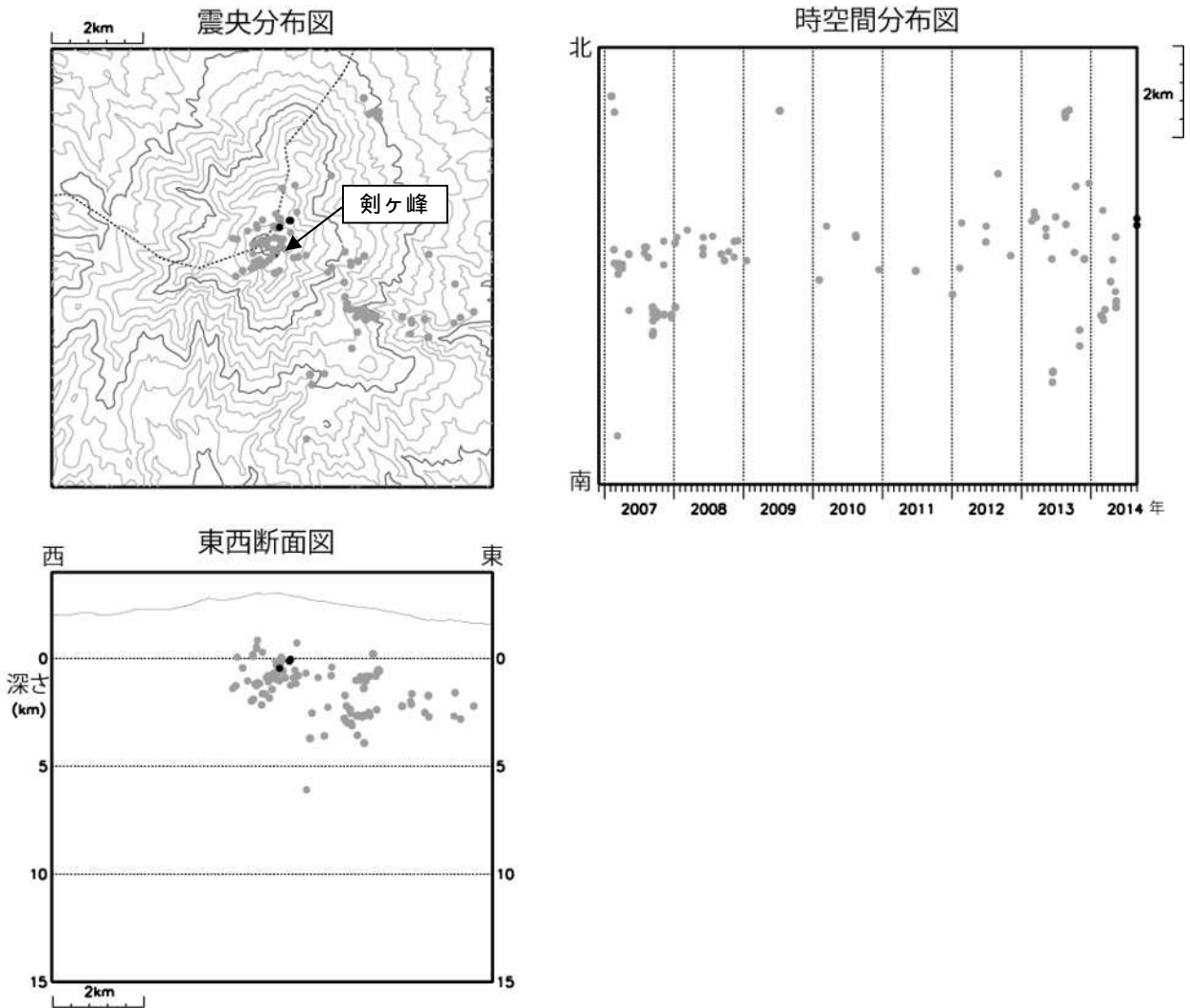
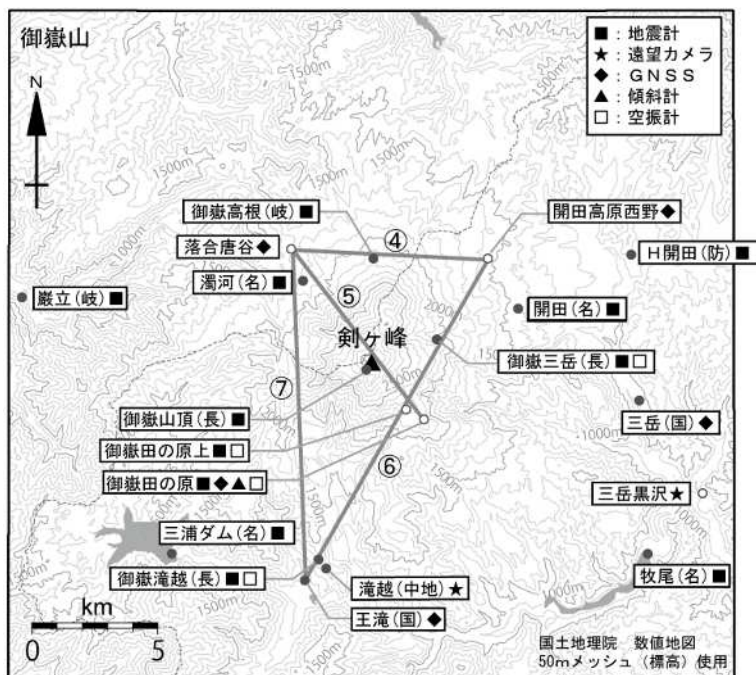


図4 御嶽山 震源分布図(2006年12月1日~2014年8月31日)
 : 2006年12月1日~2014年7月31日 : 2014年8月1日~8月31日



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院、(中地): 中部地方整備局、(防): 防災科学技術研究所、(名): 名古屋大学、
 (長): 長野県、(岐): 岐阜県

図5 御嶽山 観測点配置図

図中のGNSS基線 ~ は図3の ~ に対応しています。